

こども  
子供のインターネットバイブル  
あんない  
案内いたします

だましたヤコブ



ぶん  
文: Edward Hughes  
え  
絵: M. Maillot; Lazarus

ほんやくしゃ  
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick  
しゅつばんしゃ  
出版社: M. Kerr; Sarah S.

60話の第6話

www.M1914.org

Bible for Children, PO Box 3, Winnipeg, MB R3C 2G1 Canada

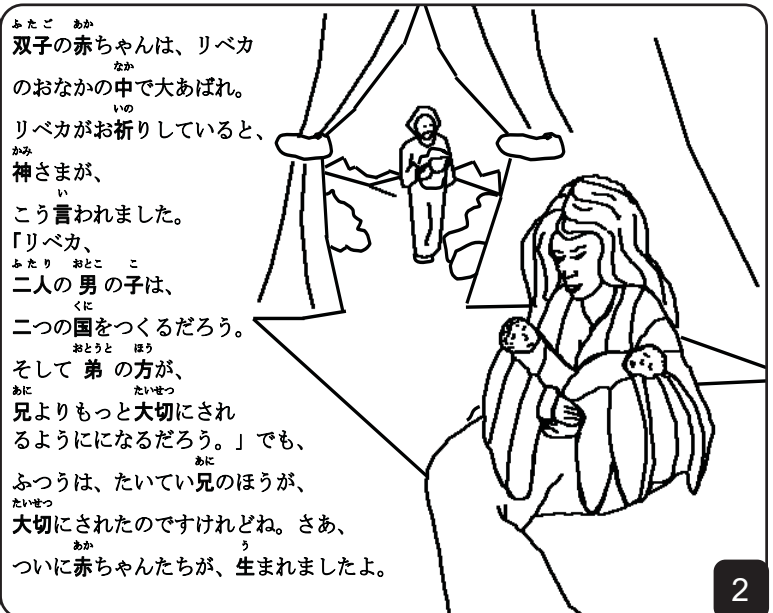
きよ抄 たにん う 抄ぞ はなし また きよ抄  
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。

日本語

Japanese



1



2



どういわけか、その双子たちは、あまり似ていませんでした。  
兄のエサウは、とても毛深くて、大きくなるにつれて、狩がたいそう上手になりました。



弟ヤコブは、すべすべの皮ふで、家の仕事を手伝うのが、大好きでした。お父さんイサクは、兄エサウの方を愛しました。また、お母さんは、ヤコブの方が、好きでした。



ある日のこと、エサウは、おなかですいてたまりませんでした。  
「何か、食べるものをくれないか？」エサウは、ヤコブに言いました。

「それじゃ兄さん、私に長男のけんりをくださいよ。」ヤコブは、つよく言いました。



そのときエサウは、長男にくださった神さまのやくそくなど、気にもしませんでした。「いいよ、そうしよう。」エサウは、ヤコブにそう

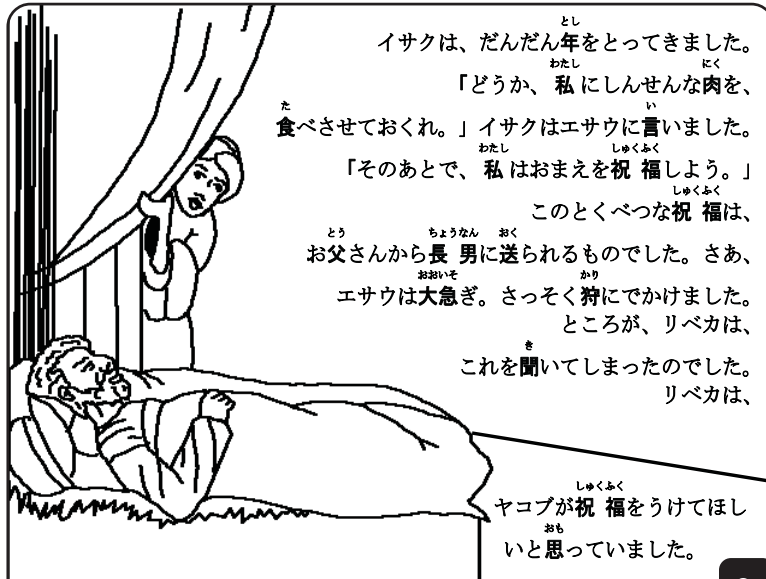
言ってしまったのです。こうなると、二人のお父さんが亡くなった時には、ヤコブがかぞくの長となるのでしょね。



ある夜、神さまはイサクに話しかけられました。  
「イサク、私はあなたの父アブラハムの神である。私は、いつもあなたといっしょにいよう！そして、あなたのしそんをずっと祝福しつづけよう！」



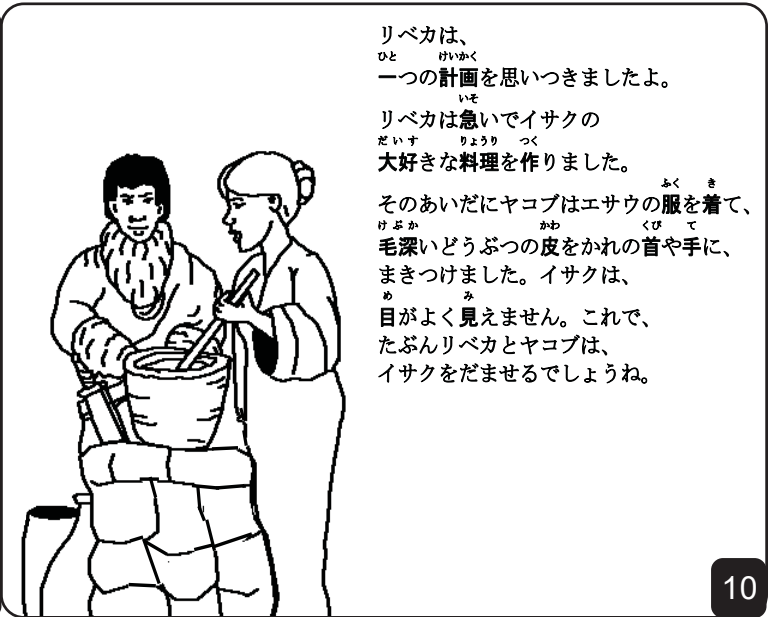
イサクは、いつも神さまのことを思い、賛美していました。でもね、イサクの息子エサウが結婚した二人のヘト人のおよめさんたちは、神さまのことなど、どうでもよいと思っている人たちでした。



イスアクは、だんだん年をとってきました。  
「どうか、私にしんせん肉を、  
食べさせておくれ。」イスアクはエサウに言いました。  
「そのあとで、私はおまえを祝福しよう。」  
このとくべつな祝福は、  
お父さんから長男に送られるものでした。さあ、  
エサウは大急ぎ。さっそく狩にでかけました。  
ところが、リベカは、  
これを聞いてしまったのでした。  
リベカは、

ヤコブが祝福をうけてほし  
いとおもっていました。

9

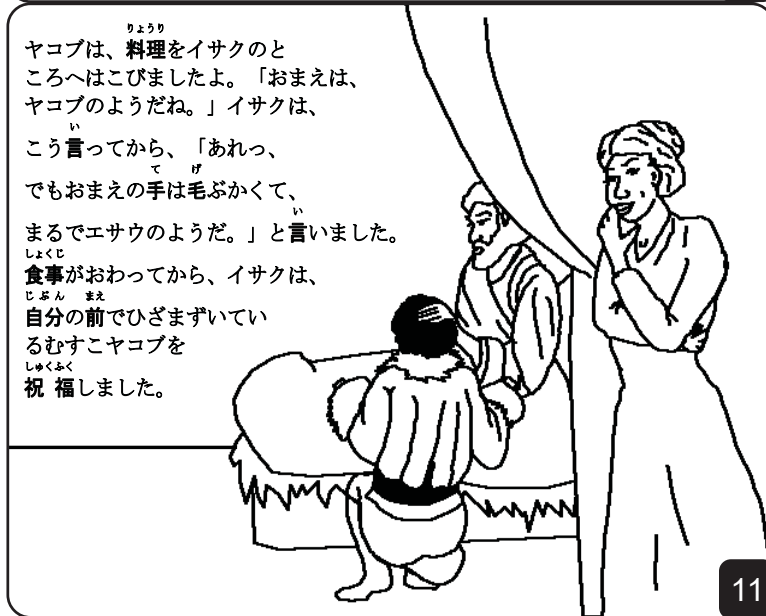


リベカは、  
一つの計画を思いつきましたよ。

リベカは急いでイスアクの  
大好きな料理を作りました。

そのあいだにヤコブはエサウの服を着て、  
毛深いどうぶつの皮をかれの首や手に、  
まきつけました。イスアクは、  
目がよく見えません。これで、  
たぶんリベカとヤコブは、  
イスアクをだませるでしょうね。

10



ヤコブは、料理をイスアクのと  
ころへはこびましたよ。「おまえは、  
ヤコブのようだね。」イスアクは、  
こう言ってから、「あれっ、  
でもおまえの手は毛ぶかくて、  
まるでエサウのようだ。」と言いました。  
食事がおわってから、イスアクは、  
自分の前でひざまずいてい  
るむすこヤコブを  
祝福しました。

11



ヤコブがイスアクのところを出て行ってからすぐ、エサウがやってきました。  
「お父さん、さあ、食べてください。お父さんの大好きな食事を作りましたよ。」  
そこで、イスアクは、ヤコブにだま

されたことに気がつきました。

「ああ！なんていうことだ。

私は、いちど祝福したものを、  
かえることはできないんだよ。」

イスアクは、こう泣きさげびました。

エサウの心は、もうヤコブへの  
くしみでいっぱいです。ヤコブを  
殺してしまおうときめました。

12



リベカは、エサウがヤコブを殺  
すつもりだって聞きつけました。  
「ヤコブ、大急ぎでここを出て、  
おじさんの家に行くんだよ。  
兄さんのエサウが、  
あなたのしたことを忘れてしまうまで、  
戻ってはいけないよ。」

13



と、リベカはこのように言いました。

イスアクは、ヤコブがかれの  
お母さんの生まれたところに行って、  
お嫁さんをさがせばいいと思い、  
さんせいしてくれました。

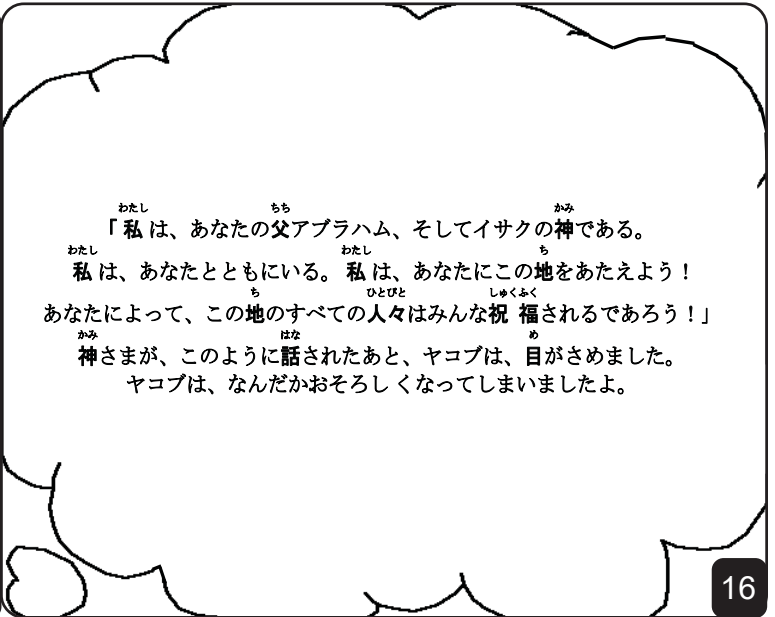
さあ、ヤコブは、  
急いでうちを出て行きましたよ。

14



その夜のことで、  
ヤコブは、石をまくらにして  
休むことにしました。ヤコブは、  
たぶんさびしかったでしょうね。  
こわかったでしょうね。でもね、  
ヤコブは一人じゃなかったのですよ。  
だって、神さまが、  
ゆめの中でヤコブとお話  
してくださったのですから。

15



「私は、あなたの父アブラハム、そしてイサクの神である。  
私は、あなたとともにいる。私は、あなたにこの地をあたえよう！  
あなたによって、この地のすべての人々はみんな祝福されるであろう！」  
神さまが、このように話されたあと、ヤコブは、目がさめました。  
ヤコブは、なんだかおそろしくなっていましたよ。

16



ヤコブのおじさんラバンは、  
ヤコブをよこんで迎えてくれ  
ましたよ。そこでヤコブは、  
いとこラケルに出会い、  
すぐに好きになりました。

17



ラケルと結婚させてもらおうと思った、ヤコブは、  
かの女のお父さんラバンのところで七年ものあいだ、  
いっしょうけんめいはたらきました。  
ところが、結婚式の夜、  
ラバンはヤコブをだましたのです。

18



「なんてひどい！ラケルじゃなくて、レアではありませんか。」  
ヤコブは、おこって言いました。「あなたは、  
私をだましたのですね。」「いやいや、  
ここではね、一ばん上のむすめが、  
はじめに結婚せにやならんのだよ。」  
ラバンは、こう答えました。

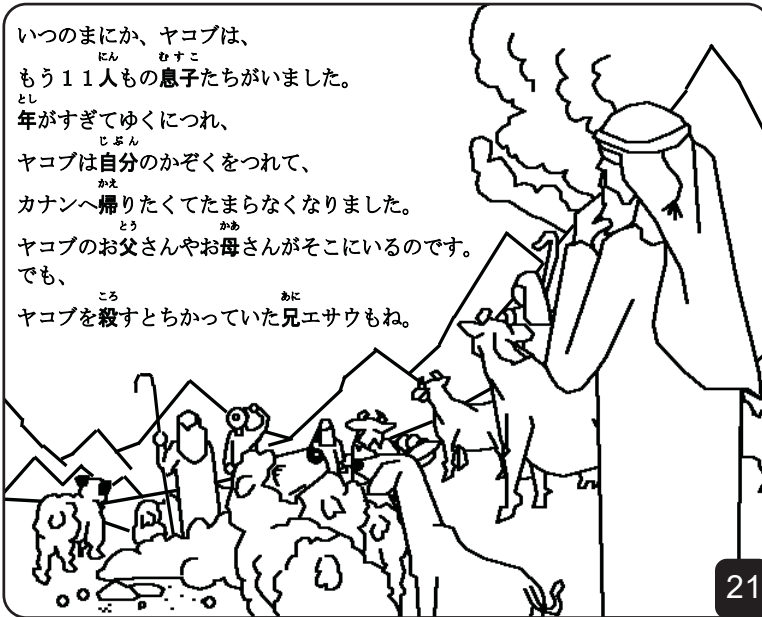
19



まあね、あと七年はたらいてくれるのなら、  
ラケルともすぐに結婚できるよ。」そこで、  
ヤコブはそうすることになりました。たぶん、  
このときヤコブは思い出したでしょう。まえに、  
父イサクと兄エサウをだましたことをね。

20

いつのまにか、ヤコブは、  
もう11人もの息子たちがいました。  
年がすぎてゆくにつれ、  
ヤコブは自分のかぞくをつれて、  
カナンへ帰りたいくてたまらなくなりました。  
ヤコブのお父さんやお母さんがそこにいるのです。  
でも、  
ヤコブを殺すとちかっていた兄エサウもね。



21

帰ってもだいじょうぶかな？ある日、  
神さまは、ヤコブに言われました。  
「帰んなさい。」そこで、ヤコブはすぐに、  
自分のかぞくやヒツジやヤギのむれをあつめ、  
なつかしい家にむかって出発しました。



22

それは、なんておおぜい  
の旅だったことでしょう。そこへ、  
なんと四百人もの人たちをつれたエサウ  
がヤコブに会いにやってきましたよ。  
けれどもエサウは、ヤコブをやっ  
けるために来たものではありません。



23

エサウは、ヤコブのところを  
しっかりと抱きしめたのです。  
いまや、ヤコブとエサウは、  
すっかりなかよしの兄弟でした。  
こうして、とうとうヤコブは、  
ぶじに家までもどれたのでした。



24

だましたヤコブ

神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

創世記 25 章 - 33 章

あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。  
詩篇 119:130

神さまは、私たちがよくないことをしたことを、しっぺをくらっています。  
神さまは、それを罪とよばれています。罪のむくい、死です。

神さまは、私たちをととも愛されたので、み子イエスをこの世におくってくださいまし  
た。そして、イエスが十字架で亡くなられることによって、私たちの罪をとってくだ  
さったのです。イエスさまは、よみがえられ天国へ  
もどられましたね！ですから、今、神さまはあなたの罪をゆるしてください。

もし、あなたがあなたの罪からはなれたいなら、神さまにこう言ってください。  
愛する神さま、私は、イエスさまが私のために亡くなってくださり、よみがえって、今また  
生きていらっしゃることを信じます。どうか、私のこころの中に入り、罪をゆるしてくださ  
い。それで、私は今、あたらしい命をいただくことができます。そして、いつまでも、あな  
たといっしょにすることができるのです。あなたの子として、生きることができますよう、  
たすけてください。アーメン

ヨハネによる福音書 3:16

まいにち、聖書をよみ、神さまと、おはなししましょう！